

薩木林ファンクラブ 通信

住所: 〒247-0013 横浜市区上郷町 1562-1 「横浜自然観察の森」 Phone 045-894-7474

世界文化遺産に登録された「寺山炭窯跡」

世界で唯一、世界遺産に指定されている炭窯(白炭)を、紹介します。

平成27年7月、日本近代化の原点を築いた「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」が世界文化遺産に登録されました。九州、山口県を中心に8県23資産が登録され、その中に薩摩藩が興した集成館事業の遺産が含まれており、集成館事業に欠かせない燃料を製造・供給した「寺山炭窯跡」も構成資産として登録されました。

近代化への取り組みが鹿児島から起こった経緯や事業が評価されたものと思われます。

1. 寺山炭窯跡

(1) 集成館事業の反射炉・高炉などには大量の燃料が必要となりましたが、薩摩藩領内の石炭は、鉱脈が小さかったり、炭質が悪くて実用に適しないということで、火力の強い木炭(白炭)を主力とせざるを得ませんでした。そこで、集成館事業の進展とともに急増する白炭の需要に対応するため、1858年(安政5年)、薩摩藩主 島津齊彬の命により、3基の大窯が建設されました。しかし、現存するのは、今回登録された「寺山炭窯跡」の1基のみ、他の2基は残念ながら、所在も分かっていません。

(2) 鹿児島市の北東部に広がる吉野台地の北側、集成館から北北東約5kmに位置する吉野町寺山に炭窯は建設されました。斜面地を利用して、地山を切って溶結凝灰岩の切石を積み上げたもので、高さ約3メートル、内部は楕円形で、長径約6メートル、短径約5メートル、入口は幅約1メートルで、上部にはアーチ状の石が渡されています。

(3) アクセス

JR 鹿児島中央駅から南国交通バスで約35分。「三州原学園前」バス停車、徒歩約20分。寺山ふれあい公園と遊歩道でつながっています。

2. 集成館事業

幕末から明治初めにかけて、薩摩藩は集成館事業という富国強兵・殖産興業政策を推進した。集成館は島津齊彬の創設・命名にかかる近代的洋式工場群であり、鹿児島市吉野町の磯地区に建設された。最盛期には千二百人が働いていた。製鉄、鋳砲、造船など軍事的色彩の強いものだけでなく、紡績、ガラス、製薬、電信、印刷など多岐にわたる事業を展開し、薩摩藩は日本最先端の工業施設・技術力を所持するようになった。幕末、薩摩藩はこれらの技術力を背景に倒幕運動を牽引することになる。明治になると、集成館をモデルにした工場が各地に造られ、集成館で活躍した技術者が、日本国内の工場に技師として招かれて指導した。現在は、機械工場跡を利用した博物館の「尚古集成館」、反射炉跡の石組みの土台などが残るだけとなっている。試行錯誤の連続であったが、本来なら国家で取り組むべき大事業を書物だけを頼りに、西洋人の力を借りずに成し遂げたことは高く評価されている。

山口隆

1. 12月の主な活動内容

- ①11月25日(水) 6名 SF準備
- ②11月28日(土) 17名 トウネズ除伐、ミズナラ搬入、炭出し、ZFC通信・印刷発送
- ③12月02日(水) 10名 SF準備、竹伐採
- ④12月05日(土) 17名 クヌギ除伐、垣根づくり、箒づくり
- ⑤12月09日(水) 13名 SF準備、垣根づくり
- ⑥12月12日(土) 19名 クヌギ林伐倒、竹炭焼き、垣根づくり
- ⑦12月16日(水) 7名 SF準備、ミズナラ片付け
- ⑧12月19日(土) 23名 ニセアカシア間伐、垣根づくり、注連縄作り、運営会

2. 運営会の報告

- ①「個人別SFの準備状況(製作予定品目・個数)」を1月の運営会にて確認する。

なお炭関連品目については以下の担当者が主として準備する。

- ・竹酢液等の販売準備: 武田、吉田、兼武、三村
- ・竹炭製品の販売準備: 山口、三村

- ②1月23日間伐体験会の運営について実施要領を策定、万全な準備対応を行なうことを確認する。なお12月23日森の交流会について実施要領ならびに当日参加者の確認を行う。

3. 1月活動予定

- ①12月23日(水) 友の会・望年会、炭小屋整理
- ②12月26日(土) 炭小屋まわり整理・清掃、ZFC通信・印刷発送、納会
- ③1月9日(土) 活動始め、竹材準備
- ④1月11日(月) 保全管理勉強会(12~15 於センター)
- ⑤1月13日(水) SF準備
- ⑥1月16日(土) 炭小屋下斜面の間伐、垣根づくり、運営会
- ⑦1月20日(水) SF準備
- ⑧1月23日(土) 間伐体験会、ドラム缶炭焼き、ZFC通信・印刷発送、ZFC新年会(森の家)
- ⑨1月27日(水) SF準備
- ⑩1月30日(土) 垣根づくり、クヌギ林草刈り

以上